

課題番号 : 28-3

研究課題名 : 海外拠点をユニバーサル・ヘルス・カバレッジ等の保健政策研究に活用するための研究

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 仲佐保、伊藤智朗

キーワード : 国際医療協力、海外拠点、UHC、ネットワーク、保健政策研究

研究成果 :

初年度の計画は、NCGM 海外拠点を活用した保健政策情報アーカイブス構築 : UHC 構築に必要な情報項目作成、並びに海外拠点を活用した保健政策研究のための情報収集であった。各国における主な成果は以下の通りである。

#### 1) ラオス

初年度はラオス公衆衛生院 (NIOPH) を中心として、UHC 関連のラオスの政策文書を収集し、WHO UHC MONITORING INDICATOR に基づき分類した。それらの政策文書やラオス公衆衛生院の報告により、ラオスでは 2016 年より国民医療保険制度が県単位で開始され、段階的にターゲット県を拡大し、2020 年までに 100% の県での導入をめざす政策が実施されている現状がわかった。

今回の我々の調査では、住民に対しての医療機関受診状況、医療機関への意識などと NCDs に関する知識を問う質問紙票で、住民の Health Seeking behavior の実態を把握すると共に、それらに医療保険の有無がどのような影響を与えているのかを分析し、制度が有効に機能するために必要な要素を明らかにすることにした。

一方、拠点を活用した保健政策研究強化では、10 月に「持続可能な開発に向けての保健研究能力強化」をテーマに第 10 回国家保健研究フォーラムが開催され、ラオスにおける保健研究のレベルが向上していることが示された。また、国立公衆衛生院 (NIOPH) において、2017 年 2 月に開催された第 2 回研究倫理研修ワークショップにおいて、研究倫理に関する基本的な事項について研修の支援を行った。

#### 2) カンボジア

国立母子保健センター (NMCHC) は母子保健行政・病院臨床・研修センターの 3 つの機能を持つカンボジア母子保健分野の中核機関であり、2012 年 12 月に合同研究、人材交流等の実施のための協定が結ばれ、新生児ケアに関する研究等の活動を継続してきた。NMCHC の母子保健に関する政策策定機能を活用して、妊産婦死亡率、特殊合計出生率、専門技能者による分助分娩比率、家族計画普及率などのデータを分析し、カンボジアにおける母子保健指標の変遷に関して検討をした。さらに、新生児分野における臨床能力強化支援を行うとともに、母子保健、特に新生児関連の研究を推進した。また、UHC に関連したカンボジアの母子保健関連情報収集を行った。また、カンボジアにおける最近の傾向である子宮がん関連の情報も収集した。

#### 3) ミャンマー

ミャンマーとは 2014 年 4 月に保健省保健局と NCGM 間の合同研究、人材交流の実施のための協定が結ばれ、健康政策実施のための研究が継続されている。2015 年 4 月に保健省の改組が行われ、保健省の保健局が保健医療サービス局と公衆衛生局に分かれたので、二つの局と新たに 5 年間の協定が結ばれた。保健医療サービス局は、保健システム関係の UHC の情報を有しており、この情報を収集した。また、同時にミャンマーのニーズに基づいた UHC 関連政策研究を実施し、具体的な政策に必要な情報の収集を行った。2017 年 2 月には、研究に関する会議を実施し、感染症関連の情報を収集し、特に NCGM と国家衛生研究所と多剤耐性菌に関する研究を継続している。

#### 4) インドネシア

インドネシア保健省管轄の唯一の感染症専門病院であるスリアンティ・サロツソ病院において、海外拠点としての基盤整備を行うとともに、新興感染症関連の研究の実施、UHC に関連したインドネシアの感染症関連情報を収集した。その他、臨床研究センターによる臨床治験に関する調整 (7 月)、感染症に関する保健医療情報、並びに関連研究の実施のため同病院への訪問を実施した (12 月)。

Subject No. : 28-3

Title : The study to utilize overseas collaboration institutions of NCGM for the health policy research on Universal Health Coverage etc.

Researchers : Chiaki Miyoshi, Tomoo Ito, Tamotsu Nakasa

Key word : International health cooperation, overseas collaboration institution, UHC, network, health policy research

Abstract : The main outcomes in each country are as follows.

- 1) **Laos:** In the first year, policy documents of Laos related to UHC were collected and classified based on “WHO UHC MONITORING INDICATOR”, mainly by the National Institute of Public Health (NIOPH). The current situation of the national medical insurance system has just been launched at prefectural level since 2016, aiming to introduce it in all prefectures by 2020. In our survey, we asked the residents about utilization of medical facilities, their awareness and knowledge on NCDs by using questionnaires to grasp their health-seeking behavior. Then we will analyze the impact of medical insurance and clarify the factors necessary for the insurance system to function effectively. To strengthen health policy research utilizing our collaboration institutions, we supported “10th National Health Research Forum” in October 2016 and “2nd research ethics training workshop” in February 2017.
- 2) **Cambodia:** After signing MOU with the National Maternal Child Health Center (NMCHC) in December 2012, research activities on newborn care have been continued. Utilizing the policy making function on maternal and child health (MCH) of NMCHC, we analyzed the data such as maternal mortality rate, total fertility rate, trained birth attendance rate, family planning coverage rate and so on, to examine the transition of MCH indicators in Cambodia. In addition to providing support to strengthen clinical capacity in neonatal field, we promoted MCH research, in particular newborn-related one. We also collected information related to UHC in the field of MCH in Cambodia and on cervical cancer which has been increasing recently there.
- 3) **Myanmar:** Joint research between the Department of Health and NCGM has been implemented since April 2014. After reorganization of the Ministry of Health (MOH) in April 2015, the Department of Health was divided into the Department of Medical Services and the Department of Public Health, a new five-year MOU was signed with the two Departments. We collected information on health system related UHC from the Department of Medical Services and information necessary for concrete policies was collected. In February 2017, we held a conference on research, collecting information on infectious diseases, in particular NCGM and the National Institutes of Health continued research on anti-multidrug-resistant bacteria.
- 4) **Indonesia:** Infrastructure as an overseas collaboration institute at Sulianti-Saroso Infectious Disease Hospital was improved, which is the only hospital specialized in infectious diseases under the jurisdiction of MOH, Indonesia. In addition, we conducted research on emerging infectious diseases, and collected information on infectious diseases related to UHC in Indonesia. In addition, we coordinated activities for clinical trial between Center for Clinical Research, NCGM and the Hospital center in July 2016, and visited the Hospital to collect health information on infectious diseases and conducted related research in December 2016.

# 海外拠点をユニバーサル・ヘルス・カバレッジ等の保健政策研究に活用するための研究

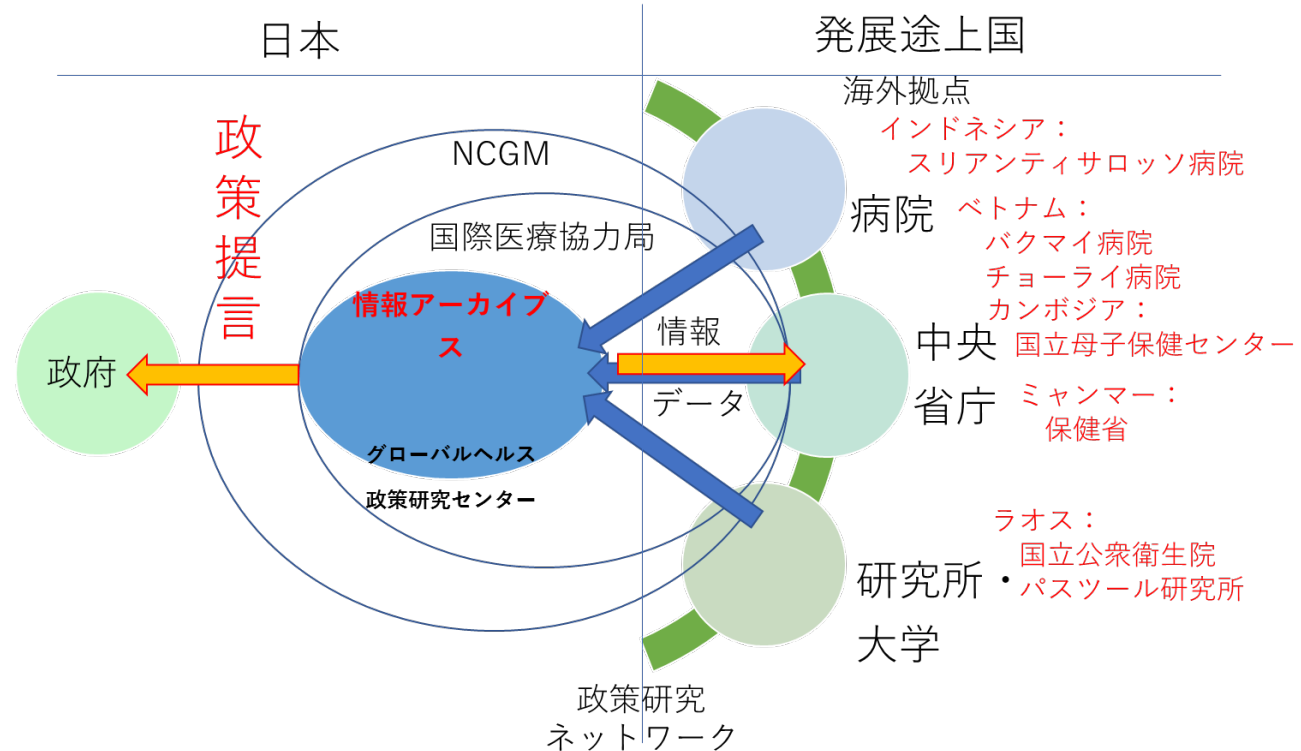
## 分担研究班：

- 保健政策研究のための情報アーカイブス構築に関する研究（分担研究者：伊藤智朗）
- 発展途上国におけるエビデンスを保健政策提言に繋ぐためのシステム構築に関する研究（分担研究者：三好知明）
- 保健政策提言実施における海外拠点の役割に関する研究（分担研究者：仲佐保）

## 期待される成果：

1. 保健政策研究を進めていくための情報アーカイブスの構築
2. 海外拠点を活用した保健政策関連データ収集に関する手法の確立
3. 海外拠点を活用したUHC等の保健政策データの収集
4. 政策研究能力向上：データ分析、政策提言策定メカニズムを含む
5. 上記データを活用した政策提言：日本、途上国、国際機関に対して
6. 海外拠点ネットワーク：海外拠点の連携によるデータの共有、情報交換、活用

拠点研究概念図



# 主な活動・成果（2016年度）

国名	拠点名	主な活動・成果(2016)		
		政策研究能力強化	UHC関連情報収集	共同研究
ラオス	国立公衆衛生院 パスツール研究所	○ フォーラム、研究 倫理研修開催	○	○ UHC関連調査
ベトナム	バクマイ病院 チョーライ病院			○
カンボジア	国立母子保健センター	○	○ 母子保健関連情報	○
ミャンマー	保健省	○	○ 感染症関連情報	○
インドネシア	スリアンティ・サロッソ病院	○ 臨床治験	○ 感染症関連情報	○

課題番号 : 28-3

研究課題名 : 発展途上国におけるエビデンスを保健政策提言に繋ぐためのシステム構築に関する研究

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 三好知明

キーワード : 国際医療協力、海外拠点、UHC、ネットワーク、保健政策研究

研究成果 :

初年度の計画は、保健政策情報アーカイブス構築:UHC 構築に必要な情報項目作成、並びに海外拠点を活用した保健政策研究のための情報収集であった。主な成果は以下の通りである。

### 1) 保健政策情報アーカイブス構築:UHC 構築に必要な情報項目作成

保健政策情報アーカイブス構築のうち、UHC 構築に必要な情報項目作成については分担研究者(伊藤)と協力して、ラオス海外拠点である国立公衆衛生院(NIOPH)とも協議し、まず、ラオスにおいて入手可能なUHC 構築に必要な情報収集を行った。具体的には、海外拠点であるNIOPHとともにUHC 構築に必要な情報項目リスト作成を行い、NIOPHを通じてデータ収集を行った。

### 2) ラオス海外拠点整備

ラオス海外拠点である公衆衛生院(NIOPH)においては、海外拠点オフィスが開設されているが、開設 2 年目を迎え、オフィス設備、機材ともはよく維持管理されている。人員は NIOPH から割り当てられているが、次第に固定化しており、徐々に「医療技術等国際展開推進事業」のロジ支援や他の研究者への協力も行われるようになった。保健省の組織として、保健省関連部局へのレターのラオス語翻訳、提出などにその機能を発揮しており、ラオス側の倫理委員会の提出などにおいても円滑に進めることができた。

しかしながら、依然としてその拠点機能は弱体なため、今年度もその基盤を強化すべく「ラオス保健研究フォーラム」(NHRF)の支援や研究倫理研修の開催などを支援することによって、その強化を図った。なお、NIOPH側から 2016 年度年報が提出されており、特記事項として挙げたい。

「ラオス保健研究フォーラム」(NHRF)の支援:2016 年 10 月 27、28 日に第 10 回国家保健研究フォーラムがサワナケートで開催された。テーマは「持続可能な開発に向けての保健研究能力強化」で、参加者総数は約 180 名で、日本からも約 30 名の参加があった。口演とポスター発表が各約 50 題あり、この中にはラオスの NCGM 海外拠点であるパスツール研究所における研究プロジェクト(SATREPS)からも発表があった。その質や内容からも NHRF が 10 年を経て、確実にラオスにおける保健研究のレベルが向上していることが示された。一方、NIOPH との UHC に関する共同研究については、今後、保険等の保健財政スキームに対する住民意識調査や、保健財政に関する情報調査の実施に向けて、共同研究の準備を開始することが合意された。今後はより政策に繋がりがながら、自立する方策を考える必要がある。

研究倫理研修の支援:国立公衆衛生院(NIOPH)において、2017 年 2 月 14 日から 16 日まで第 2 回研究倫理研修ワークショップが開催され、ビエンチャン市内の保健省、医療機関、保健科学大学等から 30 名の参加があった。講義とケーススタディにより研究倫理に関する基本的な事項について具体的に説明が行われた。

課題番号 : 28指3

研究課題名 : 保健政策提言実施における海外拠点の役割に関する研究

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 仲佐保

キーワード : 保健政策提言、ミャンマー、カンボジア、インドネシア、海外拠点

## 研究成果

本分担研究班では、特にミャンマー、カンボジア、インドネシアの拠点において、各国においてユニバーサル・ヘルス・カバレッジ等の政策に関連した研究がどのようにされているか、政策研究に関連した情報収集に関しての研究を行う。

### 1) カンボジア

国立母子保健センターは、カンボジアにおける母子保健に関しての政策機能を有している。この機能を活用して、母子保健、特に新生児関連の研究の推進をするとともに、UHCに関連したカンボジアの母子保健関連情報を収集する。また、カンボジアにおける最近の傾向である子宮がん関連の情報も収集。

カンボジア国立母子保健センター

- ・新生児分野における臨床能力強化支援継続
- ・第4回年次報告技術報告会議実施（2016年12月）
- ・UHCに関連したカンボジアの母子保健関連情報を収集する
- ・カンボジアにおける最近の傾向である子宮がん関連の情報も収集

### 2) ミャンマー

保健省は、政策担当機関であり、特に保健局保健サービス局は、保健システム関係のUHCの情報を有しており、この情報を収集する。また、同時にミャンマーのニーズに基づいたUHC関連政策研究を実施し、具体的な政策に必要な情報の収集を行う。

- ・NCGMと国家衛生研究所と多剤耐性菌に関する研究継続
- ・ミャンマー保健省公衆衛生局との協定締結（2017年2月）

### 3) インドネシア

スリアンティサロッソ病院をにおいて拠点としての基盤整備、新興感染症関連の研究の実施、UHCに関連したインドネシアの感染症関連情報を収集する。

- ・臨床研究センター臨床治験調整（7月）
- ・感染症関連の情報収集及び関連研究の実施（12月）

課題番号 : 28-3

研究課題名 : UHC関連の保健政策研究のための発展途上国における保健データ収集に関する研修

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 伊藤智朗

キーワード : UHC NCGM 海外拠点 NCDs Health Seeking Behavior

研究成果 :

本研究班では研究目的を1) NCGM 拠点のUHC 関連の情報収集能力の強化 2) UHC 等に政策テーマを絞って拠点機能のモデル化を図ることとしている。

本分担研究では、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス等のNCGM 拠点施設の能力分析の後、ラオス公衆衛生院海外拠点を中心としてUHC 関連調査・情報収集を行い、これらを通して海外拠点の調査能力強化および、そのモデル化を行うことにした。

初年度はラオス公衆衛生院を中心として、UHC 関連のラオスの政策文書を収集し、WHO UHC MONITORING INDICATOR に基づき分類した。それらの政策文書やラオス公衆衛生院の報告により、ラオスでは2016年より国民医療保険制度が県単位で開始され、段階的にターゲット県を拡大し、2020年までに100%の県での導入をめざす政策が実施されている現状がわかった。しかしながら、いまだにその保険制度がどのように国民の医療アクセス、Health seeking behavior に影響するのか、分析・評価はなされていない。

一方で近年、ラオスにおいても糖尿病、高血圧を中心としていわゆるNCDs は増加傾向とされているが、住民のNCDs に関しての知識、管理、医療機関の受診状況は不明である。

今回われわれの調査では、住民に対しての医療機関受診状況、医療機関への意識などに関する質問紙調査とNCDs に関する知識を問う質問紙票で、住民のHealth Seeking behavior の実態を把握すると共に、それらに医療保険の有無がどのような影響を与えているのかを分析し、制度が有効に機能するために必要な要素を明らかにすることにした。

2017年5月時点で、本研究のNCGM側、ラオス側の倫理審査終了。5月中旬、101世帯にパイロット調査を実施した。また本調査は2018年度におこなう予定としている。

パイロット調査は101名(回答率100%)に対しておこなわれた。現時点で公共の医療保険を持っているものが14名であった。過去3ヶ月以内の急性疾患の罹患がある人は28名おり、その対応は県病院受診が11名、ついで自身が薬局で薬を購入が6名であった。受診時の支払い金額は保険を持ってない群で平均 $277758 \pm 1320480$  K A P、持っている群で $153571 \pm 532939$  K A Pであった。また慢性疾患を有するものは19名でうちわけは6名が糖尿病、5名が喘息・呼吸器病変であった。慢性疾患治療のためにかかったコストは1ヶ月あたり保険がない群で平均 $41390 \pm 151701$ 、ある群で $63928 \pm 149385$  K A Pであった(いずれもパイロット調査で調査数が少なく統計学的有意差はなし)。医療保険そのものに関する知識は90人が「保険により医療費が減額、無料になる」という知識を知っていたが、10人は知らなかった。その他、シナリオによる病時の対応、各医療施設への意識調査、医療費への意識調査、保険への満足度調査、糖尿病・高血圧の知識の調査をおこなっている。

上記の住民調査に加えて、2017年度は医療の提供サイドである医療施設の薬剤の供給、管理状況も施設ベースの調査にて把握し分析する予定である。

これら保健医療サービスのDemand サイド、Supply サイド両者のラオスの現状を調査・分析し、さらにそれらへの健康保険制度の導入の影響を分析することは、UHC 達成に向けての重要な知見になると考えられる。

## 研究発表及び特許取得報告について

課題番号：28指3

研究課題名： 海外拠点をユニバーサル・ヘルス・カバレッジ等の保健政策研究に活用するための研究

主任研究者名：三好知明

### 論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
該当なし				

### 学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
該当なし				

### その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは( )記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。

※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。